

(3000P)



実用新案登録願

昭和51年11月16日

特許庁長官 殿

1. 考案の名称

包装用袋

2. 考案者

京都府京都市右京区西京極豆田町 番地

株式会社 麗光内

官本博男

3. 実用新案登録出願人

京都府京都市右京区西京極豆田町 番地

株式会社 麗光

代表者 新井 美明

4. 添付書類の目録

- |            |   |   |
|------------|---|---|
| 1) 明細書     | 1 | 通 |
| 2) 図面      | 1 | 通 |
| 3) 願書副本    | 1 | 通 |
| 4) 出願審査請求書 | 1 | 通 |

51 153932

以

上  
方  
式  
査

53-72610

BEST AVAILABLE COPY

## 明 細 書

## 1. 考案の名称

包 装 用 袋

## 2. 実用新案登録請求の範囲

適宜材料からなる包装用袋において、開口部  
<sup>ミール部に、又は開口部に沿った部分</sup>  
に接続する開口部の適宜位置に、適当な長さの金  
属性の細線あるいはテープを固定せしめたことを  
特徴とする包装用袋。

## 3. 考案の詳細な説明

この考案は包装用袋に関する。

菓子類、乾物類、佃煮類などの食品あるいはそ  
の他適宜の物を入れた包装用袋は従来、各種材料  
からできていて、その包装用袋の一部を開口して  
包装の中身である包装物を消費していくものであ  
り、その結果包装物が例えば半分残つたときは、  
湿気の吸収、埃の付着、開口部よりのこぼれなど  
の防止の為、包装物を他の容器に入れかえるかあ  
るいは開口部からロール状に巻いていきこれを輪

ゴム等とめて包装物を保存しなければならないものが殆んどである。この考案はこのような不便さを除去した包装用袋である。

すなわちこの考案は、プラスチック、紙、布、又は革などの適宜材料からなる包装用袋において、  
~~第1図～第3図の如く~~ <sup>シール部2に、又は第4図の如く開口部1に沿って部分4</sup>  
 開口部1に連繋する~~周辺部2の適宜位置に~~、適当な長さの金属性の細線あるいはテープ3を固定せしめたことを特徴とする包装用袋である。

金属性の細線あるいはテープは復元力が非常に弱いあるいは殆んどなく、例えばアルミニウム細線などは折り曲げた場合に殆んど元にもどらない。また、ある程度復元力を有するものでも一定以上折り曲げると弾性破壊によりやはり元にもどらない。この考案はこのような性質の金属性の細線あるいはテープを利用したもので、包装用袋の  
<sup>あかいは中心部</sup> <sup>縫製、接着、</sup>  
 周辺部をヒートシールその他適宜の方法で~~密着~~  
<sup>シール</sup>  
~~密着~~するとき間に金属性の細線あるいはテープを挟んだり、あるいは一旦包装用袋を製造した後適宜方法で金属性の細線あるいはテープを密着し、固定して製造することができる。

この考案は包装用袋の開口部に<sup>シール部に</sup>接続する~~隔壁部~~  
~~又は開口部に沿った部分~~  
~~の適宜位置に~~、適当な長さの金属性の細線あるいは  
 テープを固定せしめたから、包装物が例えば半  
 分残つたときは、開口部からロール状に巻いてい  
 き、あるいは開口部から適当に折り曲げていけば、  
 金属性の細線あるいはテープの存在により巻いた  
 り折つたりした状態のまま固定する。従つて従来  
 のように包装物を他の容器に入れかえたりあるい  
 は開口部からロール状に巻いていきこれを輪ゴム  
 等でとめたりする必要がなく非常に便利である。  
 また再び包装物を消費するときには、ロール状を  
 のばしたり、折り曲げをのばしたりするだけで元  
 にもどり実際の取扱上も非常に簡便である。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図～第4図はいずれもこの考案の一実施  
 例を示す斜視説明図である。

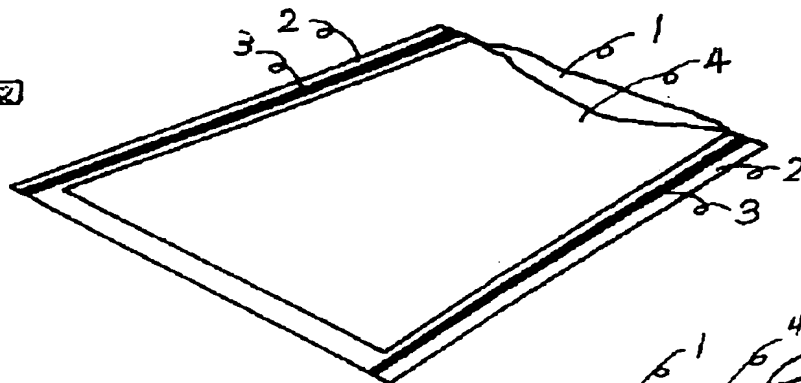
- 図中 1 ..... 開 口 部  
 2 ..... 開口部に<sup>シール部</sup>接続する~~隔壁部~~  
 3 ..... 金属性の細線あるいはテープ  
 4 ..... ~~開口部に沿った部分~~

実用新案登録出願人

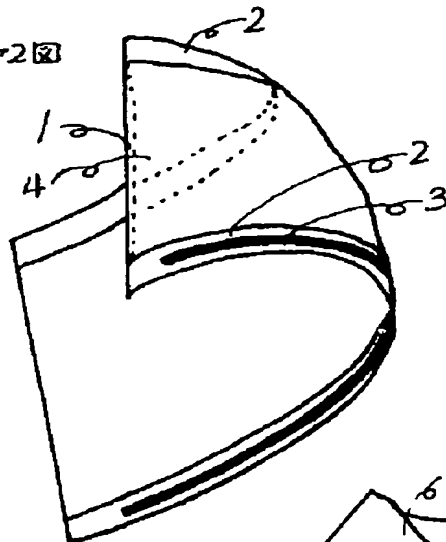
株式会社 慶 光

図面

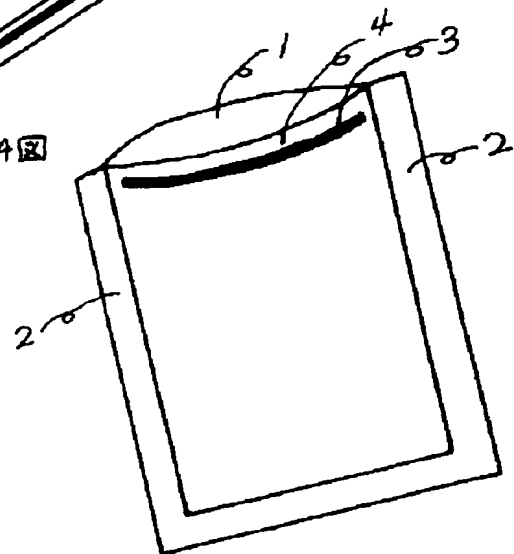
第1図



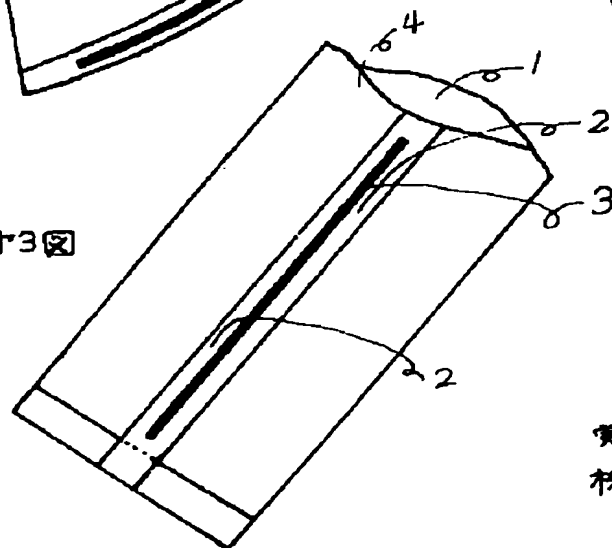
第2図



第4図



第3図



実用新案登録出願人  
株式会社 麗光

BEST AVAILABLE COPY